

駅舎内にヘアサロン！？ 加斗駅を支える理容師

美方高校新聞



発行所
福井県立美方高等学校
新 聞 部
編集責任者
新 聞 部



入り口には理髪店のサインポール

昨年百周年を迎えたJR小浜線の加斗駅。建設当時から変わらなレトロな駅舎には花々が咲き誇り、待合所には地元小学生からの手づくり座布団がちよこんと置かれている。そんな加斗駅にある「ヘアサロンつかもと」店主の塚本朝子さん（七十三歳）は、昭和四十八年に夫の久夫さんと共に加斗駅前にあった実家の理髪店を継いだ。無人化した加斗駅を気にかける二人で

掃除をしたり花を飾ったりしてきれいに保っていた。平成八年、借家だった理髪店の立ち退きを機に切符販売を兼ねて駅舎内で営業を続けることに。三年前に久夫さんを亡くしてから理髪店と駅の仕事を切り盛りしている。朝子さんは毎日、自転車とバスと小浜線乗り継いで通勤。駅の掃除をし、切符販売と予約のお客さんの散髪をこなす。留守にする時はお客さんが困らない

突如始まるヘアカット 記者が体験 ツカモトの技



はじまるドキドキ

「カットしているポーズを撮らせてください」とハサミを握ってもらうと「毛量多いねえ。後ろだけすいちゃろか」と、急きょ切ってもらうことになりました。「最近の子はあんまり短くせん方がええんやろ」と私の心を察すると、手早くカットがはじまりました。気持ちいいな一なんて思っているうちに頭がどんどん軽くなって、あっという間に全体がすっきり。スピーディーさとセーフティーさにびっくりしました。「こんなカット主人に笑われるわ」なんて楽しそうに言う朝子さんは今も旦那様と一緒に働いているんだなと思いました。



あら！いいじゃない



すっきりスツキリの私

ように貼り紙で不在を伝える。二人でしていた仕事を一人で担うのは大変だが「体力がつづく限りがんばりたい」と笑顔がこぼれた。店内はどこか懐かしい落ち着いた雰囲気。久夫さんが愛用していた道具は朝子さんが大切に受け継いでいる。「主人は何にでも一生懸命な人。若いお客さんも多かったから流行のヘアスタイルを熱心に研究していて尊敬していた」と誇らしげに話した。



久夫さん愛用のハサミ

久夫さんのエプロンを
着けて仕事に励む



ほっこり エピソード

・乗り間違いに気づき加斗駅で降りた観光客。待ち時間に髪を切ってもらった。
・冬場は電車待ちのお客さんをストーブのあった店内に招く。

レトロな看板と
空き缶風車（久夫さん作）





編集後記

たぐさんの思い出が詰まった駅舎やお店は温かくほっこりする場所でした。まさかのヘアカットまでしていただき私たちにとっても普段の取材とひと味違った特別な体験になりました。また、塚本さんが長年続けて来られたお仕事や人のための思う行動を聞いて驚きました。私もそんな人間になりたいです。これからも地元で頑張る人を紹介できるような新聞を作っていきたいと思います。

三寒四温の時節柄、何卒お体を大切にお過ごしください。